

都市空間分野と特に関連のある他分野の基本目標・目指す姿について

○生活・暮らし

基本目標 5 目指す姿②

建物や道路等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入が進み、誰もが円滑に移動することができ、快適に利用できる環境が整っています。

基本目標 5 目指す姿④

市民・企業・行政の連携や ICT の活用などにより、市民の多様な暮らしを支える交通環境が保たれているとともに、持続可能な除排雪体制の下で冬期の道路環境が確保されています。

○地域

基本目標 7 目指す姿①

誰もが自身のライフスタイルに合わせながらまちづくり活動に参加し、支えあいながら地域の課題を解決しています。

基本目標 7 目指す姿③

誰もが地域コミュニティを育み、大切にし、地縁による団体（町内会・自治会）が地域コミュニティの中核として生き生きと活動しています。

基本目標 7 目指す姿④

地縁による団体（町内会・自治会）、NPO、商店街、企業など多様な主体が参画し、地域に密着したまちづくり活動が進んでいます。

○安全・安心

基本目標 8 目指す姿①

地震や風水害・雪害といった自然災害や感染症の拡大などが起きても、生活や経済への影響を最小化するとともに、感染症の拡大を早期に抑えることができます。

基本目標 8 目指す姿②

災害時や感染症拡大時においても、誰もが安心して医療や介護を受けられています。また、一人で避難することが難しい方への細かな配慮がなされているなど、被災者の安全が確保されているとともに、復旧復興に向けて寄り添った支援が行われています。

基本目標 9 目指す姿③

交通ルールや自転車マナーが順守され、事故の少ない安全な交通環境が実現しています。

子ども・若者分野

①ユニバーサル（共生）

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと（障壁や困難の解消（時間・季節を問わず）、格差の是正、機会の均等、交流の促進、包摂性、心のバリアフリー、自然との共生など）

②ウェルネス（健康）

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること（身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など）

③スマート（快適・先端）

新たな価値や可能性の創出に向けて、多くの人が挑戦していること（先端技術等の活用による快適性・利便性や生産性の向上、人材の育成、「スタートアップ」、「ゼロカーボン」など）

●人口減少の緩和に向けては、市民の希望出生率1.65に対し、合計特殊出生率が1.12と下回っていることから、社会全体で子どもと子育てを家庭を支えていること①や、性別を問わず働きながら子育てができる環境が整っていること①が重要。

●また、社会全体で虐待やいじめなどの子どもの権利が侵害される事態を防いでいること①や、若者の社会的自立を支えていること②が重要。

●さらに子どもは一人一人の状況に応じた最適な教育環境の中で③、心身ともに健やかに②、互いを尊重し合いながら①、学んでいることが重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
W×O		<ul style="list-style-type: none"> 1人当たりの市民所得の低さ 合計特殊出生率の低さ（20市中20位） 男性、女性ともに長時間労働の傾向 子育てへの負担感を抱える市民の増加 町内会加入率の低下（地域意識や人間関係の希薄化） 	<ul style="list-style-type: none"> 価値観やライフスタイルの多様化 人生100年時代の到来、ライフシフト 	
W×T		<ul style="list-style-type: none"> 1人当たりの市民所得の低さ 子育てへの負担感を抱える市民の増加 生産年齢人口の減少、少子高齢の人口構造 		<ul style="list-style-type: none"> 全国的な少子・高齢化の進行 子どもの貧困や虐待の増加・教育格差
S×O	<ul style="list-style-type: none"> 都市機能の集積 		<ul style="list-style-type: none"> 価値観やライフスタイルの多様化 デジタル技術の急激な進歩（AI、IoT） 国によるSociety5.0の推進、デジタル庁設置の動き 	

■基本目標1 安心して子どもを生き育てることができる、子育てに優しいまち

※子どもと子育てを社会全体で支えていく観点を強化。
対応する現目標9 安心して子どもを生き育てられるまち

■基本目標2 誰一人取り残されずに、子どもが健やかに成長し、若者が希望を持って暮らすまち ⇒（修正案）誰一人取り残されずに、子どもが伸び伸びと成長し、若者が希望を持って暮らすまち

※虐待の防止、医療的ケアなど、誰一人取り残さない観点及び若者が希望を持ち、理想のライフプランが実現できる観点を強化。
対応する現目標10（将来を担う子どもの成長と自立を支えるまち）と11（若者が社会的に自立し活躍できるまち）を一本化

■基本目標3 子どもたちが互いを尊重しながら学び合い、健やかに育つまち ⇒（修正案）一人一人の良さを可能性を大切に教育を通して、子どもが健やかに育つまち

※教育に関する目標を新設。一人一人の特性や興味・関心等に応じた最適な学びや、他の子どもなどとの協働した学びに関する観点を強化。

■第2回審議会でいただいたご意見

○基本目標1について、「安心して」という表現ではなく、より主体的な「助け合いながら」というような自分が主役のイメージを出せると良い（吉岡委員）

⇒目指す姿1で子育てする人の交流の観点を記載し、子育てする人自身の主体性を表現

○基本目標2、3の両方に「健やか」が入っており、言葉が繰り返されている印象を受けた、また、基本目標3については「教育」という文言を入れて欲しい（吉岡委員）

⇒基本目標2の「健やか」を削除するとともに、基本目標3において目指すべき「教育」の姿を明記

【子ども・若者】基本目標1 安心して子どもを育てることができる、子育てに優しいまち

基本目標1 安心して子どもを育てることができる、子育てに優しいまち

■目指す姿 案

1 社会全体が、妊娠期を含めて子どもと子育てを支えています。また、子育てする人同士の交流も進んでいます。

※「地域等での子育て支援」、「妊娠期からの切れ目のない支援」、「経済的負担の緩和」の観点を記載。

2 多様なニーズに応じた保育サービスや、児童が放課後に過ごす安全で心地よい居場所が整っています。

※「多様な保育ニーズへの対応」や「保育人材の確保」、「放課後の児童の居場所確保」の観点を記載。

3 ワーク・ライフ・バランスが広く定着し、性別を問わず、働きながら安心して子育てができる環境が整っています。

※「働きながら子育てがしやすい環境整備」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと 案

目指す姿	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> 子どもと子育てを支える意識の向上【新規】 子育て世代の交流や助け合いなどの子育て支援活動の参加や推進 ※子育て世代の交流の観点【レベ】 etc	<ul style="list-style-type: none"> 地域等での子育て支援の促進 妊娠期からの切れ目のない支援 子育ての悩みや経済的負担の緩和 etc
2	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心な保育の実践 放課後の児童の居場所づくり【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> 運営体制の向上及び人材確保への支援【新規】 様々な保育サービスの整備 放課後の児童の居場所の整備や環境改善 ※環境改善の観点【レベ】 etc
3	<ul style="list-style-type: none"> ワーク・ライフバランスや働き方の転換への理解と実践 男性の家事育児への理解と実践 etc	<ul style="list-style-type: none"> 子育て中の女性などに対する「新たな日常（働き方）」を推進する取組や再就職支援【新規】 ワーク・ライフ・バランスの推進 男性の家事育児への理解と実践に対する支援【新規】 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 全国的な子育てに関する問題意識の高まりなどにより「子どもを育てやすい環境だと思う人の割合」は低下している状況にあり、行政による支援はもとより、家族の枠を超え、社会全体で子どもと子育てする人を支えていることが重要。
- 国定義の保育所待機児童数0を達成するとともに、「希望に応じた保育サービスを利用することができた人の割合」も増加しているが、保育士など子育てを支援する人材の確保や放課後に児童が利用する児童会館等の環境改善が課題となる中、多様なニーズに応じた保育サービスを利用できる環境や児童が放課後に過ごす安全な場所が整っていることが重要。
- 「仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合」は低下し、子育てについて感じる悩みは「自分の自由な時間が持てないこと」、「仕事と子育ての両立が大変なこと」といった「親自身の悩み」が増加する中、男性の家事・育児への関わりを促し、男女ともに子育てと仕事を両立できる働き方への転換に取り組んでいくことが必要。

■第2回審議会でのいただいたご意見

- 基本目標1について、「安心して」という表現ではなく、より主体的な「助け合いながら」というような自分が主役のイメージを出せると良い（吉岡委員）
- 子ども・若者の基本目標1～3を達成するためには親が経済的に豊かである必要があることから、経済の基本目標10～12を実現させることが肝要であり、車の両輪（山本一委員）

【子ども・若者】基本目標2 誰一人取り残されずに、子どもが伸び伸びと成長し、若者が希望を持って暮らすまち

基本目標2 誰一人取り残されずに、子どもが伸び伸びと成長し、若者が希望を持って暮らすまち

■目指す姿 案

1 子どもの権利の保障が進み、子ども一人一人が自分らしく伸び伸びと過ごしています。また、虐待やいじめなど、権利が侵害される事態が未然に防がれ、事態が起きても迅速かつ適切に対応しています。

※「子どもの権利の推進」、「児童虐待防止」の観点を記載。

2 支援や配慮が必要となる子どもや家庭が、困難な状況に応じた適切なサポートを受け、安心して過ごしています。

※「困難を抱える子ども（障がい児、医療的ケア児など）への支援」、「ひとり親家庭への支援」や「子どもの貧困対策」の観点を記載。

3 若者は、安心して過ごせる居場所をよりどころに社会的に自立し、将来への希望を持ちながら輝いています。

※「若者の社会的自立」や「理想のライフプランの実現（就職、結婚等）」、「大学等の教育等」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと 案

目指す姿	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの権利の理解や関心の向上 児童虐待防止等の重要性についての理解【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの権利の理解促進 権利侵害の未然防止に向けた取組の推進【新規】 児童虐待等の支援体制の充実 etc
2	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児や医療的ケア児等への理解【新規】 子どもの多様な居場所づくり【新規】 サポートの意識向上や実践【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> 潜在化している困難の早期把握【新規】 子どもの多様な居場所づくりへの支援【新規】 支援や配慮が必要となる子どもや家庭へのきめ細やかな支援 etc
3	<ul style="list-style-type: none"> 成長を支える意識の向上と実践 若者の居場所づくり 大学等との連携 大学等における質の高い教育の提供【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> 成長と自立への支援 若者の居場所づくり 理想のライフプラン実現に向けた支援【新規】 大学、地域、企業等との連携促進 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 札幌市は、平成20年（2008年）に「子どもの最善の利益を実現するための権利条例」を制定しており、引き続き、子どもの権利の保障を進めていくことが重要。また、いじめ・虐待等の事態が未然に防がれ、事態が起きても迅速かつ適切に対応していくことが重要。
- ひとり親家庭や障がいのある子ども、医療的ケア児、ヤングケアラーなど、困難を抱える子ども・家庭を早期に把握し、誰一人取り残さず、適切なサポートにより安心して過ごすことができることが重要。
- 家庭の中での様々な問題や不登校、ひきこもりなど、社会的自立に困難を抱える若者は相当数存在しているため、家庭や学校、職場以外の若者支援施設、地域活動、インターネット環境などの第3の居場所（サードプレイス）もよりどころにして、困難を取り除き、社会的に自立していくことが重要。また、若者が考える理想のライフプランを実現し、将来への希望を持つことができる環境をつくることが重要。

■第2回審議会でのいただいたご意見

- 基本目標2、3の両方に「健やか」が入っており、言葉が繰り返されている印象を受けた（吉岡委員）

【子ども・若者】基本目標3 一人一人の良さや可能性を大切にしている教育を通して、子どもが健やかに育つまち

基本目標3 一人一人の良さや可能性を大切にしている教育を通して、子どもが健やかに育つまち

■目指す姿 案

1 多様性が尊重された環境のもとで、子どもは、自分の特性や興味・関心に応じた学びと他の子どもとの協働的な学びなどを通して、自立に向けて成長しています。

※「個別最適な学び（GIGAスクール構想、少人数学級など）」
「協働的な学び（子どもの個性尊重）」の観点を記載。

2 子どもは、生涯にわたって心身の健康の保持増進を図る資質や能力を身に付けています。

※「健やかな心身の育成」の観点を記載

3 地域社会での体験活動など、多様な学びの機会が提供され、学校、家庭、地域、企業等が連携して子どもの成長を支えています。

※「多様な学びの機会の創出」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと 案

目指す姿	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性への理解【新規】 ・ICT機器やデジタル教材の活用などに対する理解と実践【新規】 ・効果的な教育用ICT機器や学習コンテンツの開発と提供【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの多様性を尊重し、可能性を最大限引き出す学びの提供 ・異学年（校種）間の学びの提供【新規】 ・ICT機器やデジタル教材の整備及び効果的な活用【新規】 ・きめ細かな指導体制の整備【新規】 etc
2	<ul style="list-style-type: none"> ・運動機会の提供【新規】 ・適切な生活習慣の実践【新規】 ・専門性を活かした講義等の実施 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・体力・運動能力向上の推進【新規】 ・健康的な運動・生活習慣作りの推進 ・豊かな心を育む取組の推進 etc
3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校外での実体験を伴う実習活動や講師を派遣しての講義などの多様な学びの機会の提供 ・家庭における教育力の向上【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、地域、企業等との連携促進 ・家庭における教育力向上のための支援【新規】 ・多様な主体と連携したICT等を活用した学びの提供【新規】 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 多様な状況にある子どもたち一人一人の良さや可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びを実現することが必要。
- 国のGIGAスクール構想に基づく学校教育におけるICT活用の一層の推進や、災害・感染症等の緊急時であっても子どもたちの学びを保障していくことなどが求められている中、急速に変化する時代の変化を捉えた学びの環境が整ったまちを目指すことが必要。
- 「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、札幌市の子どもの体力得点は政令市で下位となっており、子どもの生活習慣・食習慣・運動習慣の改善を通して、生涯にわたって心身ともに健康な生活を送るための資質・能力を育成することが必要。
- 「子どもが自然、社会、文化などの体験をしやすい環境であると思う人の割合」は横ばいである中、地域や家庭、企業など、多様な主体と連携して子どもの成長を支える体制を整備していく必要。

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 基本目標2、3の両方に「健やか」が入っているが、言葉が繰り返されている印象を受けた（吉岡委員）
- 基本目標3については、「教育」という文言を入れて欲しい（吉岡委員）

生活・暮らし分野

㊦ユニバーサル（共生）

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと（障壁や困難の解消（時間・季節を問わず）、格差の是正、機会の均等、交流の促進、包摂性、心のバリアフリー、自然との共生など）

㊦ウェルネス（健康）

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること（身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など）

㊦スマート（快適・先端）

新たな価値や可能性の創出に向けて、多くの人が挑戦していること（先端技術等の活用による快適性・利便性や生産性の向上、人材の育成、「スタートアップ」、「ゼロカーボン」など）

●高齡化は引き続き進行し、2040年代には高齡者人口が全体の4割になる見込みであるが、人生100年時代の到来とも言われていることから、市民や企業が健康への意識を高く持っていること㊦や、生涯学習・学び直しの機会が充実していること㊦が重要。

●また、高齡者・障がいのある人は必要な支援を受けられる㊦とともに、建築物のバリアフリー㊦や、行政手続などにおけるICT活用㊦が進んでいることが重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
S×O	・住みよさ ・都市機能の集積		・価値観やライフスタイルの多様化 ・人生100年時代の到来、ライフシフト ・デジタル技術の急激な進歩（AI、Iot） ・国によるSociety5.0の推進、デジタル庁設置の動き	
S×O	・市民愛着度の高い市民の多さ		・価値観やライフスタイルの多様化	

■基本目標4 誰もが健康的に暮らし、生涯活躍できるまち

※現戦略ビジョンの安全・安心分野から、健康や医療・介護・福祉を含む日常生活に関する事項として独立。生涯活躍の観点を強化。

※誰もが元気に過ごし、生涯学習や学び直しの機会の充実により、まちづくり活動や仕事など生涯にわたって活躍できる観点を強化
対応する現目標12 誰もが健康的で安心して暮らせるまち

■基本目標5 生活しやすく住みよいまち

※医療・介護体制の整備、高齡者・障がいのある人等の支援を要する方やその家族への支援、行政サービスの利便性向上等の観点を強化。
対応する現目標12 誰もが健康的で安心して暮らせるまち、14安全な日常生活が送れるまち から生活・暮らしに関する部分を独立

■第2回審議会でのいただいたご意見

○生活・暮らしの基本目標を掲げていただいたことは非常に良い（浅香委員）

基本目標4 誰もが健康的に暮らし、生涯活躍できるまち

■目指す姿 **案**

1 市民や企業の健康への意識が高まり、健康づくりや介護予防の取組等に積極的に参加することで、誰もが生涯元気に過ごしています。

- ※「健康への意識向上」や「働く世代の健康増進」、「健康づくり、介護予防等」の観点を記載。
- ※「子どもの体力向上」は子ども・若者で整理。
- ※「ウォーカブルシティの推進」、「スポーツによる健康増進」は、それぞれ、都市空間、スポーツ・文化で整理。

2 誰もが生涯にわたって学び、また、学び直しをすることができ、その成果が、まちづくり活動や仕事に生かされています。

- ※「学びの機会の充実（身近な地域での学び、就業・社会参加への学び直し等）」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・健康への意識向上【新規】 ・健康づくりや介護予防等の活動推進や積極的な参加・支援 ・従業員の健康保持・増進に向けた取組の実施【新規】 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や企業の健康への理解促進【新規】 ・健康づくりや介護予防等の取組充実や活動促進 ・働く世代の健康増進 ※健康課題のある世代への支援の観点【レベ】
2 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習への関心向上と積極的な参加 ※積極的に参加する観点【レベ】 ・多様な主体による学びの機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な学びやスキルアップ等のための学び直しの機会の充実 ※学び直しの機会の観点【レベ】 ・身近な地域で学びを深められる環境の整備 ※生涯学習環境の更なる充実の観点【レベ】 ・多様な主体との連携促進

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 札幌市民の健康寿命は男女ともに全国平均を下回っており、20～50歳代の働く世代では、他年代に比べ、肥満、運動習慣、ストレス、飲酒などの分野で指標の達成が遅れていることから、市民や企業の健康への意識が高まり、健康づくり等の取組に積極的に参加することで、誰もが生涯元気に過ごしていることが重要。
- 生涯学習をしている人の割合は58.6%（H27）となっており、高齢者人口の増加や多様な働き方等の社会の変化を捉え、多様な学びの機会を提供するとともに、学んだ成果を生かして主体的に社会に参画・活躍できる人を育む必要。

■第2回審議会でいただいたご意見

- 健康については、医療や介護の提供だけでなく、予防という観点も入れるべき（大西委員）。
- 健康については、個人の意識も重要であるが、空中歩廊のような、車に頼らない社会を作り、ナッジによる自然に健康に導かれる、ウォーカブルな都市空間を作り上げていくことも重要（大西委員）。
- 健康寿命は重要なキーワード。日常生活、運動などによる健康寿命の延伸について記載して欲しい、また、幼少期の発育が将来的な健康につながるの、子どもたちが健やかに育つ場所、指導できる人材が必要（川島委員）。
- 子どものころからの健康づくりやまちづくり、高齢になっても学び直しができることが重要（尚和委員）。

基本目標5 生活しやすく住みよいまち

■目指す姿 **案**

1 多様なニーズに応じた住まいが確保されているとともに、在宅医療、身近なかかりつけ医の普及など医療体制が整い、支援を要する方及びその家族は、医療、介護、福祉の連携の下、適切な支援を受けています。

※「住宅支援（高齢者住宅等）」や「配慮を要する方への福祉支援」、「医療体制の整備（地域医療、在宅医療、救急医療など）」、「地域包括ケア」の観点を記載。

2 建物や道路等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入が進み、誰もが円滑に移動することができ、快適に利用できる環境が整っています。

※主にハード面の「バリアフリー化の推進」の観点を記載。
※ソフト面の心のバリアフリーは「地域分野」に記載。

3 行政のデジタル化が進み、申請や相談等の行政手続がオンラインで完結するなど、行政サービスの利便性が向上しています。

※「行政手続のオンライン化」や「窓口の利便性向上」、「デジタル格差是正」の観点を記載。

4 市民・企業・行政の連携やICTの活用などにより、市民の多様な暮らしを支える交通環境が保たれているとともに、持続可能な除排雪体制の下で冬期の道路環境が確保されています。

※「交通環境」、「冬期の道路環境（除排雪）」の維持・確保の観点を記載。
※全般的な「**住環境**」―「交通」は都市空間で記載

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> 多様なニーズに応じた住まいの供給【新規】 安定した医療・介護・障がいサービスの提供 身近なかかりつけ医の受診 高齢者や障がいのある方、認知症への理解【レベ】 ※認知症への理解の観点 支援を要する方の把握への協力 障がいのある方の雇用推進 etc	<ul style="list-style-type: none"> 住まいの確保に課題を抱える方への居住支援【レベ】 ※居住支援の観点 地域包括ケアの推進【新規】 支援を要する方の適切な把握 介護人材の確保・定着に向けた支援【新規】 重度障がいのある方等に対する就労支援【新規】 etc
2	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー化やユニバーサルデザインへの理解と導入 etc	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入推進 民間施設等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入促進【新規】 etc
3	<ul style="list-style-type: none"> マイナンバーカードの積極的な活用【新規】 積極的なオンライン申請の活用【新規】 デジタルリテラシー※の向上【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> マイナンバーカードの利活用促進【新規】 行政手続のオンライン化【新規】 デジタル格差の是正【新規】 ワンストップ化やワンスオンリー※など窓口における利便性の向上【新規】 適切なデータ利活用【新規】 プッシュ型サービス※の実現【新規】 etc
4	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の利用促進 雪対策に関する理解・協力 etc	<ul style="list-style-type: none"> 交通環境や冬期の道路環境の維持・確保に向けた取組の推進 etc

デジタルリテラシー：デジタル機器の操作などに関する能力や、情報を取り扱う上での理解、さらには情報及び情報手段を主体的に選択し、収集活用するための能力
ワンスオンリー：一度提出した情報は再提出不要であること
プッシュ型サービス：一人ひとりに合った行政機関などからのお知らせを表示する機能

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 住宅確保要配慮者のうち、低額所得者や高齢者、障がいのある方の住宅支援ニーズは増加傾向であり、多様なニーズに応じた住居支援が必要。また、高齢者人口や要介護者の増加が予想されるとともに在宅医療の需要増加やダブルケア、8050問題など支援ニーズが複合・複雑化する中、ニーズに対応する支援体制が構築され、医療、介護、福祉の連携の下、適切な支援を受けていることが重要。
- 市有建築物はもとより、民間建築物の更なるバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入が必要。
- 新型コロナウイルス感染症の蔓延の中で、行政手続のデジタル化の遅れなどが顕在化しており、誰もが安心して利便性を実感でき、市民生活の質の向上につながる「市民目線によるデジタル改革」が重要。
- 人口減少や少子高齢化により公共交通の利用者の減少が予想される中、市民の多様な暮らしを支える交通環境の維持・確保が重要。さらに、除雪従事者の不足・高齢化、労務単価や機械損料の高騰等により除雪予算が急激に増加している中、冬期の道路環境の維持・確保が重要。

■第2回審議会でいただいたご意見

- 現在の戦略編には、自ら支援にたどり着けない市民を適切に把握するという表現があり、次期ビジョンでも位置付けていくべき（浅香委員）。
- 新しくできたお店でも、段差があり残念に思うこともある。今後は、高齢者やハンディーのある人、ベビーカーの親子連れなどにも優しい施設がより一層求められる（牧野委員）。

地域分野

①ユニバーサル（共生）

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと（障壁や困難の解消（時間・季節を問わず）、格差の是正、機会の均等、交流の促進、包摂性、心のバリアフリー、自然との共生など）

②ウェルネス（健康）

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること（身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など）

③スマート（快適・先端）

新たな価値や可能性の創出に向けて、多くの人が挑戦していること（先端技術等の活用による快適性・利便性や生産性の向上、人材の育成、「スタートアップ」、「ゼロカーボン」など）

●まちが成熟期を迎え、個々の価値観が多様化する中、地域コミュニティなどにおいては、年齢や性別、障がいの有無、文化、民族、国籍に対する心のバリアフリー①や、これらの違いを超えた交流①が進んでいることが重要。

●また、一人一人が地域コミュニティを育み、大切にすることを意識①、ライフスタイルに合わせてまちづくり活動に参加できるとともに②、担い手の育成が進んでいること③が重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
S×O	・市民愛着度の高い市民の多さ		・価値観やライフスタイルの多様化	
W×O		・町内会加入率の低下（地域意識や人間関係の希薄化）	・価値観やライフスタイルの多様化 ・人生100年時代の到来、ライフシフト	

■基本目標6 互いに認め合い、支え合うまち

※年齢・性別・障がいの有無・国籍・民族・文化の違いを超えて互いに認め、支え合う、心のバリアフリーを推進する観点を強化
対応する現目標1 共生と交流により人と人がつながるまち

■基本目標7 誰もがまちづくり活動に参加できるまち

⇒（修正案）誰もがまちづくりに関心を持ち、参加できるまち

※地域コミュニティを育み、大切に、ライフスタイルに合わせながら、誰もがまちづくり活動に参加できる観点を強化
現目標2、3を一本化

■第2回審議会でいただいたご意見

- 「まちづくりに参加」という言葉は後ろ向きに感じるので「参加」より主体的な表現が良い、「地域コミュニティを育むまち」というような市民が主体的な表現が必要（吉岡委員）
⇒基本目標7を「誰もがまちづくりに関心を持ち、参加できるまち」と変更するとともに、目指す姿に「誰もが地域コミュニティを育み、大切に」旨を明記し、市民の主体性を強調
- 札幌は様々な人がいるので多様な考え方がある中、基本目標の中で、誰もが、互いにという言葉強く押し出しているのは良いと思う（佐藤理委員）

基本目標6 互いに認め合い、支え合うまち

■目指す姿 **案**

1 年齢・性別・障がいの有無・国籍・民族・文化など、様々な個性・特性を互いに認め合い、尊重し合う、平和で包摂的な社会となっています。

- ※「多様性への理解促進」や「人権尊重」、「平和事業の推進」の観点を記載。
- ※「子どもの権利」については、子ども・若者で記載。

2 世代や国籍を超えた交流や趣味を通じた交流などにより市民のつながりが深まり、相互の信頼や協力が得られる社会が形成されています。

- ※「多様な交流の推進（多世代交流や高齢者の交流、国際交流）」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な個性・特性への理解 ・様々な個性・特性を互いに認め合い、支え合う取組の実践【新規】 ・平和の尊さへの理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な個性・特性への理解促進 ・平和の尊さの理解促進 etc
2 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・交流活動等への積極的な参加 ・交流の場の提供や活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流や高齢者の交流促進 ※高齢者の交流促進の観点【レベ】 ・外国人市民との交流促進 ・国際交流の推進 ・交流活動等への支援 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 今後は、一人一人の個性や違いを理解するだけでなく、支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うという視点がこれまで以上に重要となる中、年齢や性別、障がいの有無、国籍、民族、文化などにかかわらず、多様性を尊重できる社会になっていることが重要。
- 戦争・被爆の経験者が高齢化・減少し、戦争・被爆の記憶が薄れていく中、その経験を次世代に継承し、平和の尊さに対する関心や意識の向上に取り組むことが必要。
- 単身高齢者世帯の増加が予想されており、「社会的つながり」の薄さが、生きがい喪失や自立低下などをもたらすことが懸念される中、多世代の交流や高齢者同士の交流などにより、市民同士のつながりが深まり、相互の信頼や協力が得られる地域が形成されていることが重要。
- 留学生や技能実習生など外国籍市民数が増加するなど、地域の構成員が多様化してきている中、外国人市民との交流促進が重要。また、姉妹・友好都市を始め海外諸都市等との都市間交流により相互理解を深め、国家間の政治情勢等に左右されない信頼関係を築き、世界平和と世界との親善に貢献していく必要。

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 共生社会の実現に向けては、多様な人がいて当たり前環境に慣れること、そのためにも、建物のバリアをなくすこと、心のバリアフリーの推進、お互いを認め合い知ることが、大前提だと思う（牧野委員）。

【地域】基本目標7 誰もがまちづくりに関心を持ち、参加できるまち

基本目標7 誰もがまちづくりに関心を持ち、参加できるまち

■目指す姿 案

1 誰もが自身のライフスタイルに合わせながらまちづくり活動に参加し、支えあいながら地域の課題を解決しています。

※「市民まちづくり活動や地域福祉活動への参加」や「担い手の育成・確保」、「地域マネジメントの推進（区役所やまちづくりセンターの機能等）」などの観点を記載。

2 誰もが身近なものとして市政に関心を持ち、積極的に参加しています。

※「市政情報の発信」や「市政への参加促進」の観点を記載。

3 誰もが地域コミュニティを育み、大切にし、地縁による団体（町内会・自治会）が地域コミュニティの中核として生き生きと活動しています。

※地縁による団体への「理解や関心向上」や「人的・経費的負担の軽減」、「活動促進」の観点を記載。

4 地縁による団体（町内会・自治会）、NPO、商店街、企業など多様な主体が参画し、地域に密着したまちづくり活動が進んでいます。

※「多様な主体によるまちづくり活動促進（NPO、商店街、企業の地域貢献等）」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと 案

目指す姿	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり活動への理解や関心の向上 まちづくり活動への積極的な参加や実践 地域の特性や課題を自ら把握し、考える意識の向上【新規】 地域課題の解決に向けた取組の推進 etc	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり活動の担い手の育成・確保への支援 まちづくり活動や活動への参加の促進 寄付文化の醸成 地域課題の掘り起こしや情報発信 etc
2	<ul style="list-style-type: none"> 市政への理解や関心の向上【新規】 市政への積極的な参加【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> 市政の積極的な情報発信【新規】 市政への参加促進【新規】 etc
3	<ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティの意義や重要性の理解と関心向上【新規】 地域コミュニティ活動への積極的な参加や実践 etc	<ul style="list-style-type: none"> 地縁による団体への加入促進への支援や人的・経費的負担の軽減等【新規】 地域コミュニティの活動促進 etc
4	<ul style="list-style-type: none"> 多様な主体によるまちづくり活動への積極的な参加や実践 まちづくり活動における他団体との連携 etc	<ul style="list-style-type: none"> 地域特性を生かした活動の促進 官民連携の環境づくり etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 寄付を通じた間接的なまちづくり活動への参加は浸透してきているものの、防災訓練や健康づくり活動など、自発的に行う活動への参加には課題があり、元気な高齢者のまちづくり活動への参加促進や寄付文化の更なる醸成等を通じて、誰もが地域のまちづくり活動や地域福祉活動に参加し、地域の課題を解決していることが重要。
- 市政への参加しやすさに必要なこととして「参加の機会に関する情報がより分かりやすく、入手しやすくなること」が高くなっており、市政情報等のターゲット別（年代や分野など）の発信強化等（出し手本位の広報から、受け手本位の広報への変革）を通じて、市民や企業の市政への理解や関心が向上し、市政に積極的に参加していることが必要。
- 地域コミュニティ活動を担う団体として町内会が重要と認識されているものの加入率は緩やかに減少しており、地縁による団体の持続的なまちづくり活動を可能とする基盤強化が必要。また、民間事業者のビジネス活動を市政課題解決につなげる官民連携の促進等により、多様な主体が地域に密着したまちづくり活動を推進していることが重要。

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 住民の主体的な活動が重要であるし、行政による情報発信に期待（尚和委員）。
- 現ビジョンには地域課題を解決すると掲げているが、市民が地域課題を把握できるようにすることが重要と考えるので、市民自ら考えるという言葉を入れて欲しい（佐藤理委員）。
- 高齢者といっても元気でまだまだ活躍できる生産性を持った素晴らしい方もたくさんいるので、生涯現役でこれを活かせる場所も必要（牧野委員）。

安全・安心分野

①ユニバーサル（共生）

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと（障壁や困難の解消（時間・季節を問わず）、格差の是正、機会の均等、交流の促進、包摂性、心のバリアフリー、自然との共生など）

②ウェルネス（健康）

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること（身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など）

③スマート（快適・先端）

新たな価値や可能性の創出に向けて、多くの人が挑戦していること（先端技術等の活用による快適性・利便性や生産性の向上、人材の育成、「スタートアップ」、「ゼロカーボン」など）

●地震・風水害などの自然災害の頻発や新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、日頃の備え①や情報伝達手段③が充実し、災害時には、医療②や要配慮者への支援①などが適切に提供されていることが重要。

●また、交通③や食②に関し安全が保たれているとともに、デジタル化の進展により懸念される犯罪・トラブルの発生が防止されていること③が重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
S×T	<ul style="list-style-type: none"> ・市民愛着度の高い市民の多さ ・住みよさ ・都市機能の集積 			<ul style="list-style-type: none"> ・頻発する自然災害 ・感染症のパンデミック
W×O		<ul style="list-style-type: none"> ・生産年齢の減少、少子高齢の人口構造 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル技術の急激な進歩（AI、Iot） ・国によるSociety5.0の推進、デジタル庁設置の動き 	

■基本目標 8 防災・減災体制が整った災害に強いまち

⇒（修正案）防災・減災体制が整い、**迅速に復旧復興できるまち**

※災害対策や日常の安全などの観点に特化（健康や医療・介護・福祉を含む日常生活に関する事項は生活・暮らし分野）

※胆振東部地震の発生、新型コロナウイルスの感染拡大等の経験から、地震に加えて、風水害、感染症を防災・減災していく観点を強化するとともに復旧復興の観点を追加。
対応する現目標13 地域防災力が強く災害に強いまち

■基本目標 9 日常の安全が保たれたまち

※消費生活や交通安全、防犯対策など、平常時の安全を守る観点を強化。
対応する現目標14 安全な日常生活が送れるまち

■第2回審議会でもいただいたご意見

○防災・減災体制をいくら整えても、被害を防ぐには限界がある。防災・減災だけでは被害を防ぎきれないからこそ、被害を軽減することと、被害を受けた後の回復を助けることの2本立て、両輪が必要（定池委員）

⇒基本目標に「迅速に復旧復興できるまち」と明記し、被害を受けた後の回復を支援する観点を位置付け

基本目標 8 防災・減災体制が整い、迅速に復旧復興できるまち

■目指す姿 **案**

1 地震や風水害・雪害といった自然災害や感染症の拡大などが起きて、生活や経済への影響を最小化するとともに、**感染症の拡大を早期に抑えることができています。**

※「防災・減災対策（耐震化、大規模停電対策、浸水対策など）」や「災害対策体制の充実」、「感染症への対応」の観点を記載。

2 災害時や感染症拡大時においても、**誰もが安心して医療や介護を受けられています。**また、一人で避難することが難しい方への細かな配慮がなされているなど、被災者の安全が確保されているとともに、復旧復興に向けて寄り添った支援が行われています。

※「災害時や感染症拡大時の対策」、「災害時要配慮者への対応」、「復旧・復興」の観点を記載。

3 防災への意識が向上し、誰もが冬季の災害も想定した備えを行っています。また、有事の際には一人一人が主体的に行動し、協力し合うなど、地域の防災力が高まっています。

※「自助（日頃からの備え等）」、「共助（地域防災等）」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> 所有建築物等の耐震化、停電対策、浸水対策や事業継続対策の推進【レベル】 ※停電対策、浸水対策の実施や業務継続対策の観点 <p>etc</p>	<ul style="list-style-type: none"> 企業等との連携など、迅速な災害対策を行う体制の充実 防災関係機関や他市町村との広域的な連携体制の充実 災害時におけるライフラインや交通ネットワークの確保 公共施設、上下水道、道路などの耐震化、停電対策、浸水対策の実施や業務継続力の強化【レベル】 ※停電対策や浸水対策、業務継続力の観点 民間施設の耐震化や停電対策、浸水対策、事業継続対策の促進【レベル】 感染症の拡大を可能な限り抑制する早期の対応【新規】 <p>etc</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所や物資の提供など、災害発生時の協力 災害時や感染症拡大時の医療・介護の提供【新規】 災害時基幹病院を中心とした災害対応力の強化【新規】 高齢者や障がい者、外国人等の災害時要配慮者の避難支援体制の整備 迅速な復旧復興に向けた技術の高度化【新規】 <p>etc</p>	<ul style="list-style-type: none"> 円滑な避難所運営や体制の整備 避難情報等の災害情報の積極的な提供 ICTや先端技術を活用した迅速な災害対応や効果的な情報伝達【新規】 災害時や感染症拡大時の医療・介護提供体制の整備や強化【新規】 災害時要配慮者に対する支援の充実 迅速な復旧・復興【新規】 <p>etc</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな災害への理解と防災意識の向上【新規】 各家庭や企業での備蓄など、災害への備え 災害時の地域や企業等の助け合い意識向上【新規】 防災訓練への参加など自主防災活動の推進 <p>etc</p>	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害や冬季災害を含めた防災への理解促進【新規】 子どもの頃からの防災教育の充実 自助・共助による自主防災活動の促進 <p>etc</p>

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 気候変動に伴う災害（洪水・土砂災害等）の激甚化・頻発化や新型コロナウイルスの蔓延を受け、耐震化や大規模停電対策、感染症対策などの防災・減災対策を通じて災害が起きて生活や経済への影響を最小化することが必要。
- 災害時には、医療・介護サービスを継続できる体制が整い、一人で避難することが難しい市民への細かな配慮がなされるとともに、迅速な復旧・復興に向け、被災者に寄り添った支援が行われていることが重要。
- 胆振東部地震の後、災害に対する備えを行っている家庭の割合は増加傾向にあるものの、災害に備えた活動を行っている自主防災組織の割合は横ばい傾向であり、冬季災害への対応も想定しながら、引き続き、公助に加え、自助・共助による災害対策に取り組んでいくことが必要。

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 災害時においては、安否が把握できないことに非常に苦労したことから、把握ができる仕組みなどがあると良い（佐藤理委員）
- 積雪寒冷期の災害想定もしているということも何らかの形で示した方が、「さまざまな方面に目配りをしている」という理解も深めてもらえる（定池委員）
- 積雪寒冷地であることを踏まえ、冬の災害が起きたことを想定して記載すべき（岡本委員）

基本目標9 日常の安全が保たれたまち

■目指す姿 **案**

- 1 犯罪や消費生活に関するトラブルの発生が未然に防止されています。
※「防犯対策」や「消費者被害の防止」の観点を記載。
- 2 強靱な消防・救急体制が構築され、市民の安全・安心が守られています。
※「消防・救急体制の整備」の観点を記載。
- 3 交通ルールや自転車マナーが順守され、事故の少ない安全な交通環境が実現しています。
※「交通安全」や「自転車対策」の観点を記載。
- 4 食の安全が守られ、誰もが健やかで豊かな食生活を送っています。
※「食の安全」の観点を記載。

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した消費者としての意識向上【新規】 ・法令を遵守した適正な取引行為の推進【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪や消費生活に関するトラブルを未然防止できる対策の充実 ※未然防止する観点【レベ】 ・子どもの安全など地域防犯の取組推進 etc
2	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防火の意識向上と活動推進【新規】 ・広域的な消防行政への理解・協力【新規】 ・持続可能な救急医療体制のための連携【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防火対策の推進や持続可能な消防団体制の構築【新規】 ・広域的な消防行政の推進【新規】 ・大規模災害への備えや対策【新規】 ・救急活動等へのICTや先端技術の活用【新規】 etc
3	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールなどの理解・順守・マナー向上 ・地域等での交通安全運動の推進 ・民間の土地・施設における公共駐輪場設置等への協力【新規】 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールや自転車マナーの理解促進 ・交通安全の担い手確保【新規】 ・歩行者、自転車及び自動車の通行環境の安全性向上と総合的な駐輪対策の推進【新規】 ・事故危険箇所の解消や子供の移動経路の安全確保に向けた取組の推進 etc
4	<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全への意識向上 ・食品の自主的な衛生管理 etc	<ul style="list-style-type: none"> ・生産から販売までの安全確保 ・自主的な衛生管理等の推進 ・食品等の安全性に関する学習機会や情報提供の充実 etc

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 犯罪や消費生活へのぜい弱性を帯びた高齢者人口が増加していくことが予想される中、デジタル化による消費行動の変化や特殊詐欺被害等への対応など、トラブルの発生が未然に防止されていることが重要。
- 高齢者の増加により火災時に逃げ遅れる死傷者の増加が懸念されるとともに高齢者の増加に比例する救急需要が予想される中、強靱な消防・救急体制を構築し、市民の安全・安心が守られていることが重要。
- 迷惑駐車や放置自転車の問題が続いていることや自転車対歩行者事故が増加していることから、事故の少ない安全な交通環境が実現していることが重要。
- 食に関する大きな事件・事故が発生し食の安全・安心が揺らぐと、市民生活のみならず、食産業や観光にも大きな影響を与えることから、食の安全が守られ誰もが健やかで豊かな食生活を送っていることが重要。

■第2回審議会でのいただいたご意見

- 該当なし

①ユニバーサル

支える人と支えられる人という一方向の関係性を超え、双方向に支え合うこと
(障壁や困難の解消、格差の是正、機会の均等、交流の促進、自然との共生など)

②ウェルネス(健康)

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること
(身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など)

③スマート(快適・先端)

先端技術等を活用し、まちの魅力・快適性を高めていること
(利便性の向上、生産性の向上、人材育成、ゼロカーボンなど)

●人口減少の緩和につながるもう一つの方策に、若者の道外流出の抑制と国内外から企業や人材の流入の促進があり、札幌の強みである分野や今後成長が期待される分野の産業が成長している③とともに、新しい技術やアイデアで社会課題の解決に挑戦するスタートアップが活発になっている③ことが重要。

●また、地域経済を支える中小企業や商店街などが生産年齢人口の減少を克服していること③も重要。

●さらに、女性や高齢者を含め希望する誰もが安定して働ける仕事に就いている①とともに、価値観やライフスタイルに応じて多様で柔軟な働き方ができる環境が整っていること②が重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
S×O	<ul style="list-style-type: none"> 都市機能の集積 高い都市ブランドイメージ 食の魅力 観光満足度の高さ ICT関連産業の振興の歴史・企業集積 国からスタートアップ・エコシステム推進拠点都市に認定 		<ul style="list-style-type: none"> デジタル技術の急激な進歩 国によるSociety5.0の推進、デジタル庁設置の動き 北海道新幹線の札幌開業 日本一の食糧自給率(北海道) 	
W×O		<ul style="list-style-type: none"> 1人当たりの市民所得の低さ 生産年齢の減少、少子高齢の人口構造 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル技術の急激な進歩 国によるSociety5.0の推進、デジタル庁設置の動き 	
W×T		<ul style="list-style-type: none"> 1人当たりの市民所得の低さ 女性、高齢者の有業率の低さ 男性、女性ともに長時間労働の傾向 子育てへの負担感を抱える市民の増加 生産年齢の減少、少子高齢の人口構造 		<ul style="list-style-type: none"> 全国な少子・高齢化の進行 感染症のパンデミック

■基本目標10 強みを生かした産業が経済をけん引し、誰もがチャレンジできるまち
⇒ 強みを生かした産業が北海道の経済をけん引しているまち

- ※現目標4 強みを生かした産業が経済をけん引するまち と
- 現目標7 強みを生かし世界とつながるまち を一本化

■基本目標11 多様な主体と高い生産性が経済成長を支えるまち
⇒ 多様な主体と高い生産性、チャレンジできる文化が経済成長を支えるまち

- ※現目標5 様々な連携により産業が高度化するまち と
- 現目標8 地域コミュニティを支える産業を大切にするまち を一本化

■基本目標12 雇用が安定的に確保され、多様な働き方ができるまち
※対応する現目標6 市民の雇用が安定的に確保されるまち

基本目標10 強みを生かした産業が北海道の経済をけん引しているまち

■目指す姿 (案)

- 1 札幌市・北海道の強みである食、観光分野の産業が、時代の潮流を的確にとらえ、国内外からの新たな消費を生み出し、札幌市はもとより北海道の経済成長をけん引しています。
- 2 健康福祉・医療、IT、クリエイティブ分野の産業が、国内外から投資や人・企業を呼び込み、札幌市の新たな強みとして更なる成長を遂げています。

※新たな強みである産業に成長している という観点を追加

■私たちが取り組むこと (案)

目指す姿	市民・企業など	行政
1	(食) ・国内外への販路拡大【レベ】 ・付加価値の向上 ・地産地消の実践 (観光) ・観光コンテンツ創出【新規】 ・観光客誘致 ・観光客へのおもてなし	・食・観光分野の重点的な振興支援 (食) ・販路拡大支援 ・付加価値向上支援 (観光) ・観光コンテンツ創出支援【新規】 ・観光客誘致支援 ・MICE推進 ・受入環境整備
2	・新技術の活用による製品開発、付加価値の向上 ・地場の中小企業の発展への理解、協力	・健康福祉・医療、IT、クリエイティブ分野の重点的な振興支援【レベ】 ・新技術の開発支援



■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 新型コロナウイルスによる経済への影響を踏まえながら、これまで強みであった産業の振興とともに、新たな柱となる産業の育成・創出の促進が重要
- 北海道観光の拠点として付加価値を高め、国内外からの観光消費を拡大させることが重要
- 少子高齢化に伴う国内市場の縮小が予測されるため、海外進出等新たな需要の掘り起こしが重要

■第2回審議会でいただいたご意見

- アウトターの政策として、観光に思いきって振り切るという手もある。世界から人を呼び込んで消費してもらうことが重要。北海道、札幌に残された唯一の発展の道（原田）
- ビジネス等で生み出されたものがカルチャーになり、それが住んでいる人へのコミットメントにもなる。そしてカルチャーが新しいビジネスを生むような、循環があるとよい。
（佐藤（大））

基本目標11 多様な主体と高い生産性、チャレンジできる文化が経済成長を支えるまち

■目指す姿 **案**

- 1 中小企業・小規模企業や商店街など、事業を営むもの全ての活動が活発で、地域のにぎわいや経済を支えています。
※小規模企業の振興という観点を追加
- 2 様々な分野でデータや先端技術が活用され、生産性が向上し、人口減少社会においても持続的な経済成長を遂げています。
※生産性の向上という観点を追加
- 3 行政、大学、民間組織等の関係機関が一体となり、起業家を育成・支援する体制や環境が充実し、誰もがチャレンジできる文化が根付くことで、多くのスタートアップが生まれ続けています。
※チャレンジできる文化の定着、スタートアップの創出という観点を追加
- 4 様々な企業が数多く立地、創業し、スタートアップの集積や産学官連携、国内はもとより海外の企業等とも活発な交流を行うことにより、新たな価値が創出され続けています。
※スタートアップの集積、海外との交流をより強化していくという観点を追加

■私たちが取り組むこと **案**

目指す姿	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の店舗の利用 ・地域の商店街活動への積極的な参加 ・新しい技術や製品開発への挑戦 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営基盤の強化に向けた支援 ・商店街活性化に向けた支援
2	<ul style="list-style-type: none"> ・データや先端技術の活用【新規】 ・組織の垣根を超えたデータ等の連携【新規】 	<ul style="list-style-type: none"> ・データや先端技術の導入支援【新規】 ・生産性向上への支援【レベ】 ・民間とのデータ等の連携【新規】
3	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ・エコシステムへの積極的な参画や協力により、多くのスタートアップを創出【新規】 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ・エコシステムの構築、発展支援【新規】
4	<ul style="list-style-type: none"> ・国内及び海外の企業等との積極的な交流 ・新事業や新分野への事業展開 ・新たな技術や製品の開発に向けた産学官連携の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業立地の促進 ・創業支援 ・新たな技術や製品の開発に向けた産学官連携の促進 ・海外展開支援

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 有事に柔軟に対応し生産性の高い中小・小規模事業者の創出、創業の促進、地域の商業活動の活性化に資する支援などを行い、少子高齢化の進展に対応した持続可能な地域経済を構築する必要がある。
- 産学連携のさらなる推進により、先端技術・研究を活用したイノベーションの創出や市内産業の競争力の強化を図り、理系人材の定着が促進される魅力的な企業を創出することが重要。
- スマートシティの実現、オープンデータなどによる産業の高度化や地域の課題解決が重要。

■第2回審議会でのいただいたご意見

- まちづくりの基本目標について、新しい生活スタイルやビジネスが創発しやすいまちづくりを目指す（ビジネス創造プラットフォームの実現）（山本（強））
- 勇気と信念をもって起業したスタートアップ企業が発展するには、多くの仕事をこなし、雇用し、人を育て、継続することが重要である。札幌の経営者は、未来を創造する「出る杭を打つ」ことなく、それらの企業を積極的に支え育て、「出る杭を伸ばすまち」づくりが出来る、未来志向の経営者でありたい。未来の産業を興し牽引する人材を育てることに、今こそ産学官で力を合わせる必要がある（山本（一））
- 若者の道外流出について、若者は、経済活性化において大きな人的資源であり、道外への若者の流出について、札幌、道内での産業基盤の弱さが起因していることは、多くの委員の皆様がその認識を共有しているところだと思ふ
- これまでもビジョンの中に若者の流出についての記載はあったが、例えば先端技術産業の製造部門の誘致を目指すことや、起業家精神の育成、札幌の強みを生かした産業を興していくなど具体的な対策が見えていなかったように考える。
- スタートアップ拠点として、行政からもしっかりとサポートが必要。若者の流出を防いだり、新しい産業を創造する、起業を目指して札幌に移住することにつながる。様々な教育機会を通じて起業家精神を育むことも大事。（中田）
- スタートアップは札幌市としては強みかもしれないが、外から見たときに強みと言えるのか。スタートアップのレベル感を引き上げた方がいいと考えている。SWOT分析を興味深く見せてもらったが、海外から見ても札幌の強みであると言えるようなものに取捨選択しても良いのではないかと。福岡など、具体的なライバルを意識したビジョンになると良い（木村）

基本目標12 雇用が安定的に確保され、多様な働き方ができるまち

■目指す姿 (案)

- 1 安心して働ける魅力的な雇用が安定的に確保されるとともに、企業も必要とする人材を確保できています。
※企業の人材確保という観点を追加
- 2 女性、高齢者、障がい者など多様な人材が持てる能力を發揮し、誰もがやりがいや充実感を得ながら働くことができます。
また、高い専門性を生かすことができる職場で、若い世代を中心とした幅広い年代の人材が活躍しています。
※「女性、高齢者、障がい者、外国人等の多様な人材の雇用」に加え、「大学生等、専門性の高い人材の雇用」を包含して記載
- 3 働きやすい職場環境が整備されるとともに、多様で柔軟な働き方や、仕事と生活の調和のとれた生き方が実現しています。
※多様な働き方（テレワーク等）という観点を追加

■私たちが取り組むこと (案)

目指す姿	市民・企業など	行政
1、2、3	<ul style="list-style-type: none"> ・職業能力の向上や自己啓発 ・ワーク・ライフ・バランスへの理解と実践（長時間労働の解消等） ・働く環境の改善（テレワークの導入等）【新規】 ・多様な人材の雇用 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業能力の向上や自己啓発に向けた支援 ・ワーク・ライフ・バランスへの理解と実践に向けた支援 ・働く環境の改善に向けた支援 ・多様な人材の就労支援 ・人材を必要とする業界への支援【新規】

■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 誰もがチャレンジでき、働きやすい社会のあり方を検討することが必要
- 若者の道外への転出超過は続いているため、地元企業の魅力アップ等により、若者の地元定着を図る取組の強化が必要
- 就労側にとって安心して働ける雇用先の確保と、企業側にとって必要な人材確保の取組を一体的に進めることが必要
- 新しい働き方（テレワーク等）が社会に浸透していることが重要

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 今の若い人たちはITを自在に使こなしている人が多いので、それを札幌でビジネスとして地元を離れず定着できる仕組みや企業も増えると良いと考える
- 札幌は新しいチャレンジができる都市だと確信している。多様な人へのチャンスの種をたくさん撒き続けていける札幌を望む。アフターコロナが変革の時と捉え、SDGsも含め、まずは知ることから意識を変えるという重要性を提案する（牧野）

①ユニバーサル

支える人と支えられる人という一方の関係性を超え、双方向に支え合うこと
(障壁や困難の解消、格差の是正、機会の均等、交流の促進、自然との共生など)

②ウェルネス(健康)

誰もが幸せを感じながら生活し、生涯現役として活躍できること
(身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康など)

③スマート(快適・先端)

先端技術等を活用し、まちの魅力・快適性を高めていること
(利便性の向上、生産性の向上、人材育成、ゼロカーボンなど)

●世界からヒト・モノ・投資・情報を引き付け、共生社会や環境都市の実現、都市のリニューアル等に生かすため、札幌の強みであるウインタースポーツの大規模な国際大会が誘致・開催されていること③が重要。

●誰もがスポーツ(ウインタースポーツを含む)を楽しめる(する・みる・ささえる)こと②や、文化芸術を通じた学びや交流の機会が充実していること①が重要。

SWOT	Strengths	Weaknesses	Opportunities	Threats
S×O	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然環境、5mの降雪と共存する世界に類を見ない大都市 冬季オリパラ大会の国内候補地への内定 地域愛着度の高い市民の多さ 都市機能の集積 高い都市ブランドイメージ 観光満足度の高さ 		<ul style="list-style-type: none"> 価値観やライフスタイルの多様化 都市のリニューアル時期による投資意欲の高まり 	
W×O		<ul style="list-style-type: none"> 市民の健康寿命は全国平均以下 町内会加入率の低下(地域意識や人間関係の希薄化) 	<ul style="list-style-type: none"> 価値観やライフスタイルの多様化 人生100年時代の到来、ライフシフト 	

■基本目標13 世界屈指のウインタースポーツシティ

※冬季オリパラ招致・開催のポテンシャルがある世界屈指のウインタースポーツシティを目指す目標を新設。

■基本目標14 四季を通じて誰もがスポーツを楽しめるまち

※子どもから高齢者、障がいのある人、観光客も含めて、誰もがスポーツを楽しめる(みる、する、ささえる)観点を強化。

※審議会意見を踏まえ、四季を通じてスポーツを楽しめるという視点を追加。

■基本目標15 文化芸術が心の豊かさや創造性を育むまち

※文化芸術を誰もが楽しめることに加え、心の豊かさや創造性を育む観点を強化。

基本目標13 世界屈指のウインタースポーツシティ

■目指す姿 **案**

1 身近なところでウインタースポーツを楽しむことのできる環境が充実しています。また、札幌で育ったウインタースポーツのアスリートが国内外で活躍しています。

※総合型ハイパフォーマンススポーツセンター誘致、アスリートを育成する環境の充実 という観点を追加

2 豊富な降雪量と都市機能を合わせ持つ世界でも稀有な環境を生かして、大規模なウインタースポーツ大会を誘致・開催し、世界から注目されています。

※大規模スポーツ大会の誘致、大会で得た知見の市民還元、大規模スポーツ大会を契機としたシティプロモート という観点を追加

■私たちが取り組むこと **案**

	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的なウインタースポーツへの参加（市） ・アスリート雇用・支援（企）【新規】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウインタースポーツに参加しやすい環境づくり
2	<ul style="list-style-type: none"> ・大会開催への支援・協力（市・企）【新規】 ・来札者へのおもてなし（市・企）【新規】 	<ul style="list-style-type: none"> ・大会招致・開催【レベ】 ・大会で得た知見を市民に還元する仕組みづくり【新規】 ・大会を契機としたシティプロモート



■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 市民の文化やライフスタイルとして根付かせるため、ウインタースポーツ実施率の上昇を目指すことが必要（H29:20.1%）。
- オリンピック・パラリンピック大会の開催が可能な都市として、ウインタースポーツシティとしての魅力を高めていくことが重要。
- 2030冬季オリパラに向けた大規模スポーツ大会の競技運営等のノウハウ蓄積、大会機運の醸成が必要。
- アスリート育成する環境づくりとしての、本市スポーツ施設の戦略的活用や、ICTを活用したオンライン指導、HPSC誘致が重要。
- 大規模スポーツ大会を通じて得た知見を市民に還元する仕組みづくりが重要。
- 大規模スポーツ大会等を契機として、人の呼び込みやシティプロモートを推進していく必要。

■第2回審議会でもいただいたご意見

○前回のオリンピックのときは、パラリンピックが無かったが、2030年冬季オリパラ招致となると、札幌では初のパラリンピック開催となる。そうなれば、冬季のバリアフリーを進めていく必要。（高野）

基本目標14 四季を通じて誰もがスポーツを楽しめるまち

■目指す姿 **案**

- 1 誰もがスポーツを楽しみながら、心身ともに健康で充実した生活を送っています。
※健康寿命の延伸につながる生涯スポーツの推進 という観点を追加
- 2 スポーツをきっかけに国内外から人が訪れ、地域経済が活性化しています。
※スノーリゾートのブランド化 という観点を追加

■私たちが取り組むこと **案**

	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な参加や交流（市） ・参加の促進（企） ・民間スポーツ施設整備やアスリートの雇用（企）【新規】 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが参加しやすい環境づくり ・医科学的知見を市民に還元する仕組みづくり【新規】 ・スポーツ分野におけるICT活用の促進【新規】
2	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツイベントに伴う交流、おもてなしの推進（市・企）【レベ】 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツによるまちづくり ・スノーリゾートのブランド化【新規】



■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 高齢化社会の進行に伴い、スポーツを通じた健康維持・健康寿命の延伸を目指すことが重要。
- トップアスリートのサポートやスポーツ分野におけるICTの活用促進などを通じて得た医科学的知見を市民に還元する仕組みづくりが重要。
- スポーツを通じて、ハード・ソフトの両面から共生社会の実現を目指すことが重要。
- スポーツ実施率の向上（H29：56.4%）のため、多様化するライフスタイルに応じて、「する・みる・ささえる」のさまざまな角度から誰もが日常の中で気軽にスポーツを楽しめる環境整備や機会創出をしていく必要。
- スポーツをきっかけとして、他分野と連携した新たな価値創造。（スポーツ×〇〇）

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 健康寿命は重要なキーワード。日常の生活、運動などによる健康寿命の延伸について記載して欲しい。幼少期の発育が将来的な健康につながる。（川島）
- 公園の近くに住んでいる人は、そうでない人と比較して運動量が1.2倍と、活動できる場があることが重要。各区ウォーキングマップのような資源を広く周知し、特に高齢者に対して、外に出歩ききっかけをつくる必要がある。（椎野）
- 障害のある方へのスポーツ振興も重要。（川島）
- 札幌の気候はウィンタースポーツに限らず、夏季のスポーツイベントを開催するにも適地であると考えため、スポーツによる観光客誘致に取り組むべき。（川島、中田）

基本目標15 文化芸術が心の豊かさや創造性を育むまち

■目指す姿 **案**

- 1 誰もが文化芸術に親しむことができる環境が整い、多様な価値観が受け入れられています。
※社会包摂機能、多様性への理解 という観点を追加
- 2 札幌ならではの文化が育まれ、世界に発信されるとともに、**様々な分野との連携**により新たな価値が創出され、まちの魅力が向上しています。
- 3 文化・文化財を適切に保存し様々な**形**で生かすとともに、札幌への愛着を深めることで、札幌の自然・歴史・文化が未来へ継承されています。

■私たちが取り組むこと **案**

	市民・企業など	行政
1	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞や創作活動への積極的な参加（市） ・文化芸術活動への支援・協力（企） 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが観賞・創作に参加しやすい環境づくり ・担い手支援【新規】
2	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術を活用した交流（市） ・文化芸術の積極的な活用（市・企） 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な文化芸術イベントの開催 ・文化芸術による交流が生まれる環境づくり ・様々な分野との連携の機会づくり ・文化芸術の発信
3	<ul style="list-style-type: none"> ・文化・文化財の保存や様々な形で生かすための取組への理解・支援および協力（市・企）【新規】 ・事業への積極的な参加、担い手としての参画（市・企）【新規】 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化・文化財の保存や様々な形で生かすための取組 ・文化・文化財に関する普及・啓発 ・担い手支援【新規】



■当該基本目標に関する今後（継続を含む）の課題、新たな視点

- 社会包摂機能をいかし、多様な人・価値観との関わりによる相互理解を深める機会の創出を目指すことが重要。
- 行動様式が変容する中、より多様な鑑賞スタイルや創作・発表機会があることが重要。
- 誰もが日常の中で気軽に文化芸術に触れる・参加することのできる環境づくりが必要。
- 文化芸術の担い手の支援が必要。
- 文化芸術をきっかけとして、他分野と連携した新たな価値創造や、関係人口を増やすなどまちの活性化を目指すことが重要。
- 文化・歴史・自然の観点から郷土への関心、特に自然史から生物多様性の取り組みへの関心を高めることが必要。
- 文化遺産（歴史的建造物等）の保存・継承の担い手の確保が必要。

■第2回審議会でもいただいたご意見

- 多様な人が当たり前前に自然に交じり合って生活していける環境が重要（牧野委員）
- 札幌のイメージは初音ミクだと思っている人たちも少なくない。まちのイメージをつくっていく、カルチャーになっていくということがある。（佐藤（大）委員）